

科目名	経営情報システム特論	科目名 (英文)	Advanced Study of Business Information Systems
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	小林 正樹

授業 (指導) 概要・目的	経営情報システムは、現代の経営において不可欠なものである。本科目は、すでにそれらの基本を学んでいるものとして、IT, ICT, IoT 全盛の現在における最新の事例を学生自ら調査・学修し、そのさらなる有効利活用について提案・プレゼンテーションをし、学外のコンテスト等に応募していただきたい。
到達目標	現実を知り、情報システムの新たな利活用手法を見いだす。
授業方法と留意点	教員から「教える」ことはしません。学生が自ら発案し、それを教員が後押しすることにより、現実のものへとしていきます。
授業 (指導) 計画	授業の前半では世界中で行われている事例について自ら研究し、その現実を知る。毎回1つのテーマを決め、10分程度のプレゼンテーションをしてもらう。学生同士でディスカッションを行ったり、教員は其中でヒント等を与えていく。 後半では自らそれらを利用した新たな事例を想像・創造し、毎回10分程度のプレゼンテーションを課す。ここでも学生同士でディスカッションを行い、教員はコメントを行っていく。 最終的にそれらのなかから1トピックを取り上げ、最終レポートに仕上げ提出する。
事前・事後学習課題	事前学修： 世界中で起きている情報システムの現実を知る。毎週、気になる話題をピックアップしてくる。 事後学修： 授業内でディスカッションした内容をもとに、それが具現化できるようにアイデアを練ること。
評価基準	毎回のプレゼン (60%), 最終レポート (40%)
教材等	受講生と相談の上決定
備考	

科目名	経営情報総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar of Business Information I
配当年次	1 年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	針尾 大嗣

授業 (指導) 概要・目的	総合演習 I では、院生各自の具体的な研究テーマ、研究に必要なフレームワークおよび研究資料の収集方法、分析手法等に関して理解を深め、修士論文の作成に向けた一連の技能ならびに研究倫理を修得する。
到達目標	修士論文の作成のためのプロセスを理解する。 修士論文の作成・資料収集における研究倫理を理解する。 研究に必要な基本的なフレームワークを理解する。 基本情報技術者資格レベルの問題を解くことができる。
授業方法と留意点	研究に必要な基礎的知識については、基本情報処理技術者試験および情報セキュリティマネジメントのテキストを用いて学ぶ。
授業 (指導) 計画	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：研究テーマ、研究計画の設定 第 3-10 回：研究計画に沿った調査・文献収集、ディスカッション 第 11-15 回：調査レポート作成、報告
事前・事後学習課題	事前：指定の文献を読み、関連する資料の収集、まとめを行う。 事後：指導教員に指摘された問題点について検討し、修正を行う。
評価基準	レポート (60%)、毎回の課題 (40%) による総合評価
教材等	演習内で適宜指定
備考	

科目名	経営情報総合演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar of Business Information II
配当年次	1年	単位数	2
学期(開講期)	後期	授業担当者	針尾 大嗣

授業(指導)概要・目的	総合演習Ⅱでは、総合演習Ⅰを基礎に各院生が選択したテーマについての関連資料および事例の分析とディスカッションを通して、研究の主題やアプローチを具体化する。
到達目標	修士論文の主題とアプローチを定める。 研究に用いるデータ分析法およびデータの扱いについて正しく理解する。 情報セキュリティマネジメントレベルの問題を解くことができる。
授業方法と留意点	研究に必要な基礎的知識については、基本情報処理技術者試験および情報セキュリティマネジメントのテキストを用いて学ぶ。
授業(指導)計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマ、研究計画の確認 第3-10回：研究計画に沿った調査・文献収集、データ分析、ディスカッション 第11-15回：分析レポート作成、報告
事前・事後学習課題	事前：指定の文献を読み、関連する資料の収集、まとめを行う。 事後：指導教員に指摘された問題点について検討し、修正を行う。
評価基準	レポート(60%)、毎回の課題(40%)による総合評価
教材等	演習内で適宜指定
備考	

科目名	中小企業特論	科目名 (英文)	Advanced Study of Small Business
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	野長瀬 裕二

授業 (指導) 概要・目的	中小企業研究にあたっての基本的な事項を検討する。イノベティブな成長志向の中小企業、ベンチャー企業について、その社会的意義についても学ぶ。
到達目標	日本の中小企業の特徴と課題を理解すること、また中小ベンチャー企業研究にあたっての調査の方法についても学ぶ。
授業方法と留意点	当該テーマの基本論点については教員が講義するが、適宜、研究専門書を示すので、その内容に関する報告を受講者にしてもらう。その際、必要なデータの収集や関連の文献については、受講者が自らすることが望ましい。必要に応じて TEAMS を用いたオンライン教育を行う。 毎回の予習 90 分、復習 90 分
授業 (指導) 計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代における中小企業の位置づけについて学ぶ。</li> <li>2. 成長志向の中小企業、ベンチャー企業の意義について学ぶ。</li> <li>3. 中小企業の調査方法について学ぶ。</li> <li>4. 中小企業の商品開発・販売について学ぶ。</li> <li>5. 中小企業の技術開発について学ぶ。</li> <li>6. 中小企業の生産管理について学ぶ。</li> <li>7. 中小企業の財務管理について学ぶ。</li> <li>8. 中小企業の人的資源管理について学ぶ。</li> <li>9. 中小企業の外部経営資源管理について学ぶ。</li> <li>10. 受講者による中小企業調査の報告①</li> <li>11. 受講者による中小企業調査の報告②</li> <li>12. 受講者による中小企業調査の報告③</li> <li>13. 受講者による中小企業調査の報告④</li> <li>14. 受講者による中小企業調査の報告⑤</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
事前・事後学習課題	事例企業の調査報告を作成してくること。また、授業終了後、論点要点を整理し、自らの考えをまとめておくこと (合計 30 h)。必要に応じて地域経済実践演習に参加することを許可する。
評価基準	まとめレポート (30%)、出席、講義内での報告、ディスカッション (70%)
教材等	地域産業の活性化戦略、野長瀬裕二、学文社
備考	

科目名	地域保健医療特論	科目名 (英文)	Advanced Study of The Regional Health Medical Care
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	田井 義人

授業 (指導) 概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和60年12月の第1次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。</li> <li>・本特論では、経済発展を支える保健・福祉（介護）・医療分野を取り上げ、地域経済活性化のひとつの方法論として、これらのサービス連携の必要性を考察し、保健、福祉（介護）、医療に関する専門書を紹介し、専門書の精読によって興味ある内容について、書評を提出する。書評を基に具体的な取り組みとして、必要な制度設計はどうあるべきか等を議論し明らかにしていくことを目的とする。</li> <li>・政令指定都市の高機能病院での事務職としての実務経験を活かして上記内容の理解と習熟を目的とした実践的演習を行う。</li> <li>・SDG-s3「すべての人に健康と福祉を」に該当。</li> </ul>
到達目標	<p>地域保健医療 (The regional health medical care) とは何か、について受講生自身の見解を述べるができること、次に、保健や医療に関する主要な理論と方法について、その概要が説明できること、最近の日本あるいは海外における保健医療制度の事例を説明できるようになることである。</p> <p>そして最後に、保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性和意義について説明できるようになることである。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義、演習もしくは実技等のいずれかによりまたはこれらの併用により行う。授業は多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。下記内容を実施する。</li> <li>・保健医療制度についての概要や、診療報酬制度などに関する主要な理論と方法については、主に教員が講義を行うが、最近の日本あるいは海外における保健医療の事例に関しては、受講生が主体となって調査、分析し、地域における保健医療の課題や政策について自分なりの見解をプレゼンテーションすることができるように、教員が助言するというスタイルで授業を進める。日頃、保健医療に関わる病院や介護施設などの活動について興味を持ち続けるよう、留意してほしい。</li> </ul>
授業 (指導) 計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の医療の実態と医療費について解説する。</li> <li>2. 医療制度改革の基本戦略について概説する。</li> <li>3. 生活習慣病対策の論理について概説する。</li> <li>4. 生活習慣病対策の展開について概説する。</li> <li>5. 医療費適正化と医療提供体制のあり方との関係について概説する。</li> <li>6. 医療機能の分化・連携について概説する。</li> <li>7. 療養病床の再編成と在宅医療について概説する。</li> <li>8. 医療費適正化計画を紹介する。</li> <li>9. 医療費適正化と医療保険改革との関係を概説する。</li> <li>10. 医師不足問題の構造と対応について概説する。</li> <li>11. 医療、歯科医療、看護の重要性を概説する。</li> <li>12. 受講生による医療事例の紹介とこれまで概説した課題についてのディスカッション。</li> <li>13. 医療の質と患者満足について概説する。</li> <li>14. 保健医療をサービスマーケティングの視点から医療の質と患者満足についてのディスカッション</li> <li>15. 12回と14回のディスカッションから制度と患者との関係について総合的にディスカッション</li> </ol>
事前・事後学習課題	<p>対面指導を行う。場合によってはICTツールを活用する。</p> <p>受講生は、授業 (指導) 計画に沿って教材による事前学習によって概略を説明する。その後、事前に作成されたレポートを基にディスカッションを行い新たに発見した課題について事後学習する。</p> <p>12回以降は、受講生の積極的な意見発表を重視する。</p>
評価基準	<p>演習参加あるいは対面コミュニケーションによって、レポート提出 (40%)、講義内でのディスカッション (30%)、ならびにプレゼンテーション (30%) を通して総合的に評価する。場合によっては、ICTツールを活用する。</p>
教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>”・辻哲夫『日本の医療制度改革がめざすもの』時事通信社 (1,900円+税)</li> <li>・島津望『医療の質と患者満足 サービス・マーケティングアプローチ』千倉書房 (2,600円+税)</li> <li>・必要な資料は適宜配布するか、参考文献を紹介する。”</li> </ul>
備考	

科目名	地域経済総合演習Ⅲ	科目名(英文)	Seminar of Regional Economics III
配当年次	2年	単位数	2
学期(開講期)	前期	授業担当者	久保 貞也

授業(指導)概要・目的	<p>演習Ⅲは、研究テーマの根幹となる事例収集を中心に行う。演習Ⅱで検討した調査方法を実施し、実際のデータからの分析結果を報告し、それに基づき議論を行う。具体的には、調査結果と先行研究の異同を明らかにしつつ、現状の課題解決に向けた改善提案、提言を狙う。また、演習Ⅰ、Ⅱで行った理論面での知見との比較、検討を行い、当該研究での発見の有無を明らかにする。さらに、最終的な研究成果としてまとめるためのフォローアップ調査を必要に応じて実施する。併せて、研究倫理教育を行う。</p> <p>SDGs-8, 9, 11, 12</p>																																																
到達目標	<p>事例収集、アンケート調査、インタビュー調査などの調査によって、受講生オリジナルのデータを集められること。先行研究との比較・検討から共通点や相違点を明らかにできることが目標である。</p>																																																
授業方法と留意点	<p>本演習では、受講生の研究活動に合わせて必要なディスカッションの実施や外部からのアドバイスなどを受ける。受講生自身が積極的に研究課題に取り組むことが重要である。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業(一方向・双方向)などを組み合わせて実施する。</p>																																																
授業(指導)計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>テーマ</th> <th>内容・方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>研究計画の確認</td> <td>これまでの研究活動を発表し、今後の進め方について検討する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>調査実施状況の報告</td> <td>進捗報告、調査結果の概要確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>調査実施状況の報告</td> <td>調査結果の詳細を確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>調査実施状況の報告</td> <td>調査結果の分析方針の検討</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>調査結果の整理</td> <td>調査結果の分類、分析準備</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>調査結果の分析</td> <td>指導教員とのディスカッション</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>調査結果のプレゼンテーション</td> <td>研究室メンバーとのディスカッション</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>追加調査の検討</td> <td>追加調査の必要性、実施計画について検討</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>追加調査の実施</td> <td>追加調査の実施(インタビューやフィールドワークなどのための学外活動を含む)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>先行研究との比較</td> <td>先行研究との共通点を調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>先行研究との比較</td> <td>先行研究との相違点を調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>改善提案、提言の検討</td> <td>研究方法の妥当性を評価する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>改善提案、提言の検討</td> <td>研究成果から見えてくるものを明らかにする</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>研究成果のプレゼンテーション</td> <td>研究室メンバーとのディスカッション</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>研究のオリジナリティの確認</td> <td>指導教員とのディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>	回数	テーマ	内容・方法等	1	研究計画の確認	これまでの研究活動を発表し、今後の進め方について検討する	2	調査実施状況の報告	進捗報告、調査結果の概要確認	3	調査実施状況の報告	調査結果の詳細を確認	4	調査実施状況の報告	調査結果の分析方針の検討	5	調査結果の整理	調査結果の分類、分析準備	6	調査結果の分析	指導教員とのディスカッション	7	調査結果のプレゼンテーション	研究室メンバーとのディスカッション	8	追加調査の検討	追加調査の必要性、実施計画について検討	9	追加調査の実施	追加調査の実施(インタビューやフィールドワークなどのための学外活動を含む)	10	先行研究との比較	先行研究との共通点を調べる	11	先行研究との比較	先行研究との相違点を調べる	12	改善提案、提言の検討	研究方法の妥当性を評価する	13	改善提案、提言の検討	研究成果から見えてくるものを明らかにする	14	研究成果のプレゼンテーション	研究室メンバーとのディスカッション	15	研究のオリジナリティの確認	指導教員とのディスカッション
回数	テーマ	内容・方法等																																															
1	研究計画の確認	これまでの研究活動を発表し、今後の進め方について検討する																																															
2	調査実施状況の報告	進捗報告、調査結果の概要確認																																															
3	調査実施状況の報告	調査結果の詳細を確認																																															
4	調査実施状況の報告	調査結果の分析方針の検討																																															
5	調査結果の整理	調査結果の分類、分析準備																																															
6	調査結果の分析	指導教員とのディスカッション																																															
7	調査結果のプレゼンテーション	研究室メンバーとのディスカッション																																															
8	追加調査の検討	追加調査の必要性、実施計画について検討																																															
9	追加調査の実施	追加調査の実施(インタビューやフィールドワークなどのための学外活動を含む)																																															
10	先行研究との比較	先行研究との共通点を調べる																																															
11	先行研究との比較	先行研究との相違点を調べる																																															
12	改善提案、提言の検討	研究方法の妥当性を評価する																																															
13	改善提案、提言の検討	研究成果から見えてくるものを明らかにする																																															
14	研究成果のプレゼンテーション	研究室メンバーとのディスカッション																																															
15	研究のオリジナリティの確認	指導教員とのディスカッション																																															
事前・事後学習課題	<p>演習での発表資料作成(2時間)</p> <p>演習でディスカッションした内容についての復習、論文作成(4時間)</p>																																																
評価基準	<p>研究進捗に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどを総合的に評価する。</p>																																																
教材等																																																	
備考																																																	

科目名	地域経済総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar of Regional Economics IV
配当年次	2年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	久保 貞也

授業 (指導) 概要・目的	<p>演習Ⅳでは、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの成果に基づき、事例分析と理論研究の統合を図り、社会的に有用性が高い研究活動の完遂を目指す。特に、これまでの研究成果を学術的にも貢献する知見としてまとめることを念頭に置き、事例の客観的な分析と、受講生が創り上げた知見の理論的な価値を見出すための議論を行う。さらに、学会発表などを通じて、論理展開の洗練化を図り、修士論文の作成に活かす。また、論文執筆やプレゼンテーション技法について実践的な指導を行う。</p> <p>SDGs-8, 9, 11, 12</p>																																																																
到達目標	修士論文の完成、および、学会や研究会での研究成果報告の実施が目標である。																																																																
授業方法と留意点	<p>本演習では、受講生の研究活動に合わせて必要なディスカッションの実施や外部からのアドバイスなどを受ける。受講生自身が積極的に研究課題に取り組むことが重要である。</p> <p>なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業 (一方向・双方向) などを組み合わせて実施する。</p>																																																																
授業 (指導) 計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>テーマ</th> <th>内容・方法</th> <th>等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>研究計画の確認</td> <td>これまでの研究活動を発表し、今後の進め方について検討する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>これまでの研究成果の確認</td> <td>論文の骨子となる成果を明らかにする</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>論文執筆 (構成)</td> <td>章構成の検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>論文執筆 (組み立て)</td> <td>節構成の検討、目次作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>最新研究の動向調査 (国内)</td> <td>直近1年の文献整理 (国内文献)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>最新研究の動向調査 (国外)</td> <td>直近1年の文献整理 (国内文献)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>論文執筆 (研究の背景)</td> <td>研究の位置づけの文章化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>論文執筆 (調査方法)</td> <td>調査方法の詳細の記述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>論文執筆 (調査結果)</td> <td>調査結果の詳細の記述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論文執筆 (調査結果)</td> <td>調査結果の詳細の記述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>研究成果についての検討</td> <td>研究成果の詳細の記述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>論文執筆 (考察と結言)</td> <td>考察と結言部分の記述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>論文執筆 (結言と全体の見直し)</td> <td>推敲作業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション指導</td> <td>発表に向けた準備、研究室メンバーとのディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>論文発表</td> <td>研究に関連するメンバーとの発表会</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	テーマ	内容・方法	等	1	研究計画の確認	これまでの研究活動を発表し、今後の進め方について検討する		2	これまでの研究成果の確認	論文の骨子となる成果を明らかにする		3	論文執筆 (構成)	章構成の検討		4	論文執筆 (組み立て)	節構成の検討、目次作成		5	最新研究の動向調査 (国内)	直近1年の文献整理 (国内文献)		6	最新研究の動向調査 (国外)	直近1年の文献整理 (国内文献)		7	論文執筆 (研究の背景)	研究の位置づけの文章化		8	論文執筆 (調査方法)	調査方法の詳細の記述		9	論文執筆 (調査結果)	調査結果の詳細の記述		10	論文執筆 (調査結果)	調査結果の詳細の記述		11	研究成果についての検討	研究成果の詳細の記述		12	論文執筆 (考察と結言)	考察と結言部分の記述		13	論文執筆 (結言と全体の見直し)	推敲作業		14	プレゼンテーション指導	発表に向けた準備、研究室メンバーとのディスカッション		15	論文発表	研究に関連するメンバーとの発表会	
回数	テーマ	内容・方法	等																																																														
1	研究計画の確認	これまでの研究活動を発表し、今後の進め方について検討する																																																															
2	これまでの研究成果の確認	論文の骨子となる成果を明らかにする																																																															
3	論文執筆 (構成)	章構成の検討																																																															
4	論文執筆 (組み立て)	節構成の検討、目次作成																																																															
5	最新研究の動向調査 (国内)	直近1年の文献整理 (国内文献)																																																															
6	最新研究の動向調査 (国外)	直近1年の文献整理 (国内文献)																																																															
7	論文執筆 (研究の背景)	研究の位置づけの文章化																																																															
8	論文執筆 (調査方法)	調査方法の詳細の記述																																																															
9	論文執筆 (調査結果)	調査結果の詳細の記述																																																															
10	論文執筆 (調査結果)	調査結果の詳細の記述																																																															
11	研究成果についての検討	研究成果の詳細の記述																																																															
12	論文執筆 (考察と結言)	考察と結言部分の記述																																																															
13	論文執筆 (結言と全体の見直し)	推敲作業																																																															
14	プレゼンテーション指導	発表に向けた準備、研究室メンバーとのディスカッション																																																															
15	論文発表	研究に関連するメンバーとの発表会																																																															
事前・事後学習課題	<p>演習での発表資料作成 (2時間)</p> <p>演習でディスカッションした内容についての復習、論文作成 (4時間)</p>																																																																
評価基準	研究進捗に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどを総合的に評価する。																																																																
教材等																																																																	
備考																																																																	

科目名	レジャー産業特論	科目名 (英文)	Advanced Study of Leisure Industries
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	持永 政人

授業 (指導) 概要・目的	平均寿命の伸長と労働時間の短縮にともない、生涯生活時間における余暇時間は30万時間を超えるとも言われる中、人生の大きな時間的領域を占める余暇活動の在り方が近年改めて問われている。本特論では日本人の余暇活動の特徴やその市場について概括的に理解を深めた上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げ、その意義や重要性、今後の在り方を考えていく。また様々な領域に広がる個別のレジャー関連企業の事例研究や討論をとおして、より具体的なあるべきレジャー産業像の検討を行うものとする。担当者は観光事業会社での観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえレジャー産業に関する実践的な教育を行う。
到達目標	レジャー関連産業の現代的な意義を認識したうえで、個別業界・個別企業の活動内容を説明できる。健康寿命・生涯学習等の観点から「趣味創作活動」「スポーツ」「娯楽」「観光・行楽」等レジャー各分野の在り方について理解できる。
授業方法と留意点	講義・文献購読・レポート作成・プレゼンテーション・ディスカッション等、学生の主体的な活動を中心に授業を進める。レジャーの分野を選択しその領域について各自調査し、レポートにまとめて発表する。
授業 (指導) 計画	第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 レジャーの変遷 第4回～第7回 現代レジャーの個別分野「趣味創作活動」「スポーツ」「娯楽」「観光・行楽」 第8回～第9回 個別レジャー分野研究 第10回～第12回 個別レジャーのレポート作成等 第13回～第14回 研究レポート作成とディスカッション 第15回 研究レポート発表
事前・事後学習課題	事前課題：授業テーマ関連書籍購読 事後課題：授業内容に関するレポート作成
評価基準	授業・研究への参加意欲・態度、レポートの内容等を総合的に判断する。
教材等	授業の中で適宜取り上げる。
備考	

科目名	サービス・マネジメント特論	科目名 (英文)	Advanced Study of Service Management
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	野村 佳子

授業 (指導) 概要・目的	サービスは航空会社やホテルなどに代表されるサービス産業のものと認識されがちですが、現在ほどの産業分野においてもサービスを抜きに考えることはできません。たとえば製造業の場合、どのメーカーも技術の面では差がつけにくいいため、アフターサービスの充実が競争力となっていることもあります。また、日本の成長戦略として観光、医療・介護、情報通信等が挙げられていることから、今後の日本経済にとってサービスが果たす役割はますます重要となることが考えられます。本授業は航空会社とホテルのサービスの現場で実務経験を積んだ教員が担当し、具体的な事例をもとにサービスについて理解を深め、高品質なサービスを提供するにはどうすればいいのかを考えていきます。		
到達目標	サービスの概念の理解とサービスと品質評価、高品質なサービスを提供するためのシステムについて理解を深めることを目的とします。		
授業方法と留意点	授業は講義を中心に、文献購読とディスカッションおよびプレゼンテーションで構成します。学生には主体的に授業に参加することを期待します。		
授業 (指導) 計画	第1回～6回	サービス・マネジメントの概要とサービスに関わる要素のマネジメントについて	
	第7回～14回	顧客価値の創造について	
	第15回	学生による事例研究&プレゼンテーション	
事前・事後学習課題	授業中に指示します。		
評価基準	授業への貢献度、課題提出、プレゼンテーションの内容等により総合的に評価します。		
教材等	文献、資料は別途指示します。		
備考			

科目名	計量経済学特論	科目名 (英文)	Advanced Study of Econometrics
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	小塚 匡文

授業 (指導) 概要・目的	計量経済学とは、数学、統計学、経済学を融合した学問分野で、経済学の理論モデルの妥当性を検証するための諸手続きを学ぶものです。この講義では、最小二乗法に代表される回帰分析だけでなく、質的選択モデル、時系列分析、パネルデータ分析といった、より進んだトピックを扱います。
到達目標	様々な実証分析の手法を学び、実際に修士論文作成に活用できるようになることを到達目標とします。
授業方法と留意点	計量経済学を理解するには、科目の性質上、確率論、統計学、微分法など数学的知識が必要です。これらについては講義中に解説しますが、履修者の皆さんにもある程度の理解が必要です。また、パソコンの基本的な使い方も修得している必要があります。
授業 (指導) 計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計量経済学とは</li> <li>2. データの整理</li> <li>3. 統計学の復習 (1)</li> <li>4. 統計学の復習 (2)</li> <li>5. 最小二乗法</li> <li>6. 単回帰分析</li> <li>7. 多重回帰分析 (1)</li> <li>8. 多重回帰分析 (2)</li> <li>9. F検定</li> <li>10. 不均一分散</li> <li>11. 系列相関</li> <li>12. 時系列データ分析</li> <li>13. パネルデータ分析</li> <li>14. 質的選択モデル</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
事前・事後学習課題	各回の講義内容や練習問題等を復習し、確実に理解するよう努めてください。
評価基準	レポート (50%)、期末試験 (50%) で評価します。
教材等	教科書・参考文献は適宜紹介します。
備考	

科目名	理論経済学特論	科目名 (英文)	Advanced Study of Theoretical Economics
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	植杉 大

授業 (指導) 概要・目的	ゲーム理論の基礎を学ぶ。特に非協力ゲームについて、情報完備の戦略型ゲーム及び展開型ゲーム、情報不完備ゲームをマスターすることを目的としている。したがって、均衡概念としてはナッシュ均衡、サブゲーム完全均衡、ベイジアン・ナッシュ均衡及び完全ベイジアン均衡を理解し、経済学へのゲーム理論の応用を十分に理解することが重要となる。
到達目標	非協力ゲームについて、情報完備の戦略型ゲーム及び展開型ゲーム、情報不完備ゲームをマスターする。
授業方法と留意点	メインテキストを用いて、レジュメ作成・発表を主に行う。
授業 (指導) 計画	第1回 オリエンテーション 第2回～4回 1. Static Games of Complete Information 第5回～8回 2. Dynamic Games of Complete Information 第9回～10回 3. Static Games of Incomplete Information 第11回～14回 4. Dynamic Games of Incomplete Information 第15回 今後の学習について
事前・事後学習課題	各講義における事前のレジュメ作成(各項目について、平均20ページ分をまとめる)
評価基準	授業参加およびレジュメ作成を主に勘案して評価する。
教材等	Robert Gibbons(1992), A Primer in Game Theory, Financial Times Prentice Hall.
備考	特になし。

科目名	経済学基礎理論総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar of General Theory of Economics I
配当年次	1 年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	柳川 隆

授業 (指導) 概要・目的	ミクロ経済学の中での独占や寡占について企業の行動と政府の政策について研究し、修士論文の研究課題を定めることを目的とする。
到達目標	産業組織論の基礎を身につけるとともに、研究課題を発見すること目標とする。
授業方法と留意点	受講生の発表と質疑応答を中心に指導を行う。受講生の既習内容とレベルに応じて、指導内容を調整する。
授業 (指導) 計画	1) 産業組織論の教科書を読んで産業組織論の基礎を身につける。 2) 研究テーマを見つけるために、参考文献を探し、テーマの候補を複数挙げ、その中から絞り込んでいく。
事前・事後学習課題	1) 教科書を読む段階では、事前に授業で扱う部分を読み、報告資料を作成して、授業でのプレゼンテーションと質疑応答に臨む。 2) 研究テーマを見つける段階では、多くの参考文献を渉猟し、その中から重要な参考文献を選び、報告資料を作成して、授業でのプレゼンテーションと質疑応答に臨む。
評価基準	授業中の報告の内容と質で評価する。
教材等	カプラル『企業の経済学：産業組織論入門』日本評論社を教科書とする。 その他、ミクロ経済学については、柳川隆・町野和夫・吉野一郎著『ミクロ経済学・入門 (新版)』有斐閣、独占や寡占については、泉田成美・柳川隆著『ブラクティカル産業組織論』有斐閣、および柳川隆・川濱昇編著『競争の戦略と政策』有斐閣、等を用いる。政策の動向については、ウー『巨大企業の呪い』朝日新聞出版、等が参考になる。
備考	

科目名	経済学基礎理論総合演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar of General Theory of Economics II
配当年次	1年	単位数	2
学期(開講期)	後期	授業担当者	柳川 隆

授業(指導)概要・目的	ミクロ経済学の中での独占や寡占について企業の行動と政府の政策について研究し、定められた修士論文の研究課題に関する先行研究をまとめ、研究のオリジナリティとなりうる点を発見することを目的とする。
到達目標	独占や寡占に関する現代の経済や政策について、選んだ研究課題を解決するための先行研究を整理し、研究のオリジナリティとなりうる点を発見することを目標とする。
授業方法と留意点	受講生の発表と質疑応答を中心に指導を行う。受講生の既習内容とレベルに応じて、指導内容を調整する。
授業(指導)計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 修士論文の課題に関する参考文献を読んで報告し、整理する。</li> <li>2) 参考文献を読んで、今後の研究において役立つ点を考察する。</li> <li>3) 参考文献に基づいて研究のオリジナリティとなりうる点を発見する。</li> <li>4) 研究のオリジナリティとなる問題を解決するための、情報収集と分析を行い、必要に応じて分析手法を取得する。</li> </ol>
事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前に、参考文献を読んで報告資料をまとめ、授業での報告と質疑応答に臨む。</li> <li>2) 事後に、授業での質疑応答を踏まえて要点を整理する。</li> <li>3) 授業での質疑応答を踏まえて、次回に向けて研究を発展させる。</li> </ol>
評価基準	期末レポート60%(研究テーマの新規性と重要性20%、研究のオリジナリティ20%、参考文献の理解度と整理20%)、授業中の報告(報告資料の充実度20%、プレゼンテーションと質疑応答の充実度20%)で評価する。
教材等	受講生が収集する参考文献。
備考	